

3-1					
主題	よく遊び、よく学び、よく食べる「にこにこ清風食堂」				
副題	高齢者と子どもが交流する居場所作り				
キーワード 1	子ども食堂	キーワード 2	地域	研究(実践)期間	15 ヶ月

法人名・事業所名	社福) 賛育会 特別養護老人ホーム清風園
発表者(職種)	上田勉(在宅訪問系統括係長)
共同研究(実践)者	森博司(子ども食堂キャプテン)、吉田美香(施設長)、伴成顕(生活相談員)、他

電 話	042-735-3000	F A X	042-734-8933
-----	--------------	-------	--------------

事業所紹介	開設 53 周年を迎える東京都町田市にある特別養護老人ホーム。グループホーム、ショートステイ、デイサービス、訪問看護、訪問介護、定期巡回随時対応型訪問介護看護、サービス付き高齢者向け住宅、診療所の事業を展開している。地域の様々なニーズに対応しており、よろずや的存在。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

にこにこ清風食堂オープンまでの課題

地域の児童民生委員から「地域で困っているのはお年寄りばかりではないよ。もっと問題を抱えている家庭の子ども達にも目を向けて」との声がきっかけ。職員有志が都内の子ども食堂を見学に行き、清風園らしい子供食堂の構想を練るが、運営資金、食材、ボランティア、書類申請の有無など、高齢者福祉とは全く異なる業務に不安が募った。

にこにこ清風食堂オープン後の課題

毎月 2 回の開催だが、回を重ねる毎に子供の人数が増えていった。元気な子供が多く、自由の中にもルールが必要と感じた。また、子供の個性を尊重しつつ、子供を取り巻く環境にも目を向けて対応する機会も増えてきた。認知症の高齢者との交流も、子供の動くスピードと高齢者の動くスピードに差があり工夫が必要となった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

資金や食材の調達に関しては、地域のお店や清風園とかかわりのある企業や後援会からの寄付で対応した。HP を立ち上げ活動をオープンにすることで新たな協賛を獲得できないだろうか。

ボランティア募集や広報に関しては、説明会の実施や、近隣の学校や学童クラブに説明、近隣住宅へのビラ配りにより周知をはかることが効果的と考えた。

ノウハウがないことへの対応として、都内の子ども食堂への見学の他、玉川大学教育学部ゼミや学童クラブ経験者に、子供達とのかかわりについて協力を得られないかと考えた。調理に関しては給食経験者のボランティアさんの協力を得る必要があった。

自由に遊んで食事をするだけではなく、最低限のルールを設定し、子供達に教えていくことも必要ではないかと考えた。そのために役割担当ごとに定期的な会議を開催した。

《3. 具体的な取り組みの内容》

他の子ども食堂とは違う、清風園らしいコンセプトを設定した。ボランティアを含め、運営方法やそれぞれの役割、コンセプトについて意識の共有を図った。食事をするだけではなく、グループホームの入所者との関わりや、子供達の交流の場、地域における子供達の居場所となることを目標に掲げている。HPやブログを立ち上げて理念や活動内容を発信し、関係団体に説明をして協賛団体を多く集めるためのPR活動を行った。

毎回の課題を担当者（調理担当や遊び担当それぞれで）で共有し、定期的にミーティングを実施した。それぞれの専門分野の方々にアドバイスを頂き、運営方法の見直しや対応方法の改善を図った。また、子供達にもわかりやすいルールを示し、説明を行った。

《4. 取り組みの結果》

地域で53年の歴史を持つ清風園が行う施設開放と入所者と一緒に食事を子ども食堂は、社会福祉法人としては初めての取り組みであり、多くの関心が集まった。清風園の知名度を利用し、地域の商店や、小中学校の先生やPTA、民生委員や小児科医、教育学部等、“地域の力”が集結し、前項で掲げたコンセプトが達成されている。

資金集め等難しい部分はあるが、助成金をもらわずに子ども食堂を運営することで、自由度の高い取り組みが行えている。子ども食堂の枠を超えた（食事を食べるだけではない）、よく遊び、よく学び、よく食べ、子供らしさを大切にすることを意識した関りが、結果的に、子供達の教育、子供達の地域での居場所としての大きな意味合いも生まれてきている。

《5. 考察、まとめ》

核家族化が進む中、‘おじいちゃんやおばあちゃん’と関わった経験の少ない子が増えている。にこにこ清風食堂に来ることで、高齢者との交流や同世代の友達との交流の場となっている。

また、地域の方々にとっても、子ども食堂のボランティアとして、社会の中で役割を持つことができる。活動が広がるにつれて多くの方々が協力してくださり、新たな交流も生まれている。その一例としてオレンジドア（認知症高齢者の集う会）とのコラボレーションや海外ボランティアとの関りもあり、広がりもみせている。

にこにこ清風食堂に来園される子供の目的も様々である。本当に家庭が貧困の為夕食を食べにくる子供もいれば、グループホームのおばあちゃんに関わる事が目的の子供、中庭で思いっきり遊ぶことが目的の子供もいる。どんな子供も受け入れ、地域全体で見守り、育てていくことが、今の時代に必要なことであり、我々社会福祉法人が行う子ども食堂の役割であると考えている。今後はさらに、町田市と連携して、一人親子育て支援事業も行っていく予定である。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

子ども食堂ネットワーク

厚労省社会保障審議会児童部会、介護保険部会資料他

《8. 提案と発信》

社会福祉法人に求められる地域貢献事業の一つとして、子供と高齢者との関りの場を多く確保していくとともに、地域住民が活動できる場として施設が解放されていくことを期待。